第Ⅳ期「昭和戦後初期　再出発の方途」刊行開始！

文献選集

教育と保護の心理学

全四期48巻／別巻 1

監修・解題

大泉　溥

クレス出版

監修のことば

日本福祉大学教授
大泉　溥

本選集は、近代日本の教育や社会的保護（児童福祉・社会福祉）にかかわる諸労作を心理学史の立場から精選して編集することにより、歴史的な成果と教訓をいわば原本で学び研究する機会を提供したいと考えて企画したものである。

この文献選集ではすでに、単行本を中心とする第Ⅰ期の明治大正期（欧米心理学の受容と実践的模索）全十二巻と第Ⅱ期の昭和戦前戦中期（自立と試練）全十二巻を刊行している。また、第Ⅲ期全十二巻では、大正末期から戦後初期にかけての「専門雑誌」や「研究紀要」などを収録した。

今回の第Ⅳ期（昭和戦後初期・再出発の方途）の全十二巻は、第Ⅰ期と第Ⅱ期の系統を引き継ぐものである。すなわち、昭和二〇年代から三〇年代前半にかけての心理学、とくに教育や福祉にかかわる心理学者の単行本を中心にパンフレットや雑誌論文なども収録する形で編集した。この企画の前半はこれまでと同様に「教育心理」や「児童福祉」などのテーマ別に編集したが、後半は戦後初期に活躍した主要な心理学者の重要な業績をまとめる形をとった。そして、とくに昭和二〇年代前半の図書は、その書名などは知られていても実際に手にすることが困難なものが多いので、優先的に収録してある。

この第Ⅳ期の刊行によって、近代日本（明治中期から昭和三〇年代半ばまで）の教育と保護（福祉）に対する心理学の寄与を歴史的に把握するのに役立つ貴重で主要な文献の集成は一応完了することになる。この文献選集が心理学はもとより、教育や福祉の基本図書シリーズとして、関係分野の方々のとりくんでおられる理論的・歴史的な研究の便宜となり、また二一世紀への学問的遺産の継承となれば、とねがっている。

第Ⅲ期全12巻
専門雑誌・研究紀要

	編者	書名	発行所など	発行年
1	谷口・淡路編	『テスト研究』第一巻一号～四号	テスト研究会	大正13年
	淡路円治郎編	『テスト研究』第一巻五号～六号	教育研究会	大正13年
2	淡路円治郎編	『テスト研究』第二巻一号～三号	教育研究会	大正13年
	村上　虎雄編	『教育心理』第一巻～第二巻	教育心理研究会	昭和9～10年
3	応用心理研究会編	『応用心理』第一巻	南光社	昭和6年
4	応用心理研究会編	『応用心理』第二巻	南光社	昭和7年
	応用心理研究会編	『応用心理研究』第一巻	中文館書店	昭和7～8年
5	応用心理研究会編	『応用心理研究』第二巻	中文館書店	昭和8～9年
	応用心理研究会編	『応用心理研究』第三巻	中文館書店	昭和9～10年
6	応用心理研究会編	『応用心理研究』第四巻	中文館書店	昭和11年
	応用心理研究会編	『応用心理研究』第五巻	中文館書店	昭和14年
	東京文理科大学心理学教室編	『教育心理研究紀要』	培風館	昭和16年
7	石川七五三二編	『個性研究』全二巻	名古屋教育研究会	昭和7～8年
	児童学研究会編	『教師日記』	小山書店	昭和9年
8	青木誠四郎編	『日本青少年教育研究所報告第一』青少年社会生活の研究』	朝倉書店	昭和17年
	青木誠四郎編	『日本青少年教育研究所報告第二』青少年錬成の課題』	朝倉書店	昭和18年
	青木誠四郎編	『日本青少年教育研究所報告第三』児童生活の実態』	朝倉書店	昭和18年
9	川本宇之介編	『（聾教育振興会）創立十五周年記念撰集』	聾教育振興会	昭和16年
	樋口　長市編	『東京聾唖学校紀要』全三輯	東京聾唖学校	昭和5～19年
10	結城捨治郎ほか編	『東京市立光明学校紀要』全七輯		昭和7～16年
	文部省大学学術局教職員養成課編	『教育指導者講習小史』		昭和28年
	教育指導者講習会編	『Institute For Education Leadership 研究要録』		昭和25年
11	応用心理学会編	『人間科学』全四冊	柏書院、巌松堂	昭和21～24年
	教育科学研究会編	『教育科学』第一号～第一二号	同学社	昭和22～23年
12	教育科学研究会編	『教育科学』第一三号～第三〇号	同学社	昭和23～25年

第Ⅳ期全12巻
昭和戦後初期―再出発の方途

	編著者・書名	発行所など	発行年
1	**文部省の教育心理**		
	文部省編『教育心理―人間の生長と発達』上・下	師範学校教科書株式会社	昭和22年
	（付）文部省編『師範心理』上（師範学校教科書）師範学校教科書株式会社		昭和18年
	（付）波多野・園原・小川ほか「文部省編『教育心理』批評」『児童心理』		昭和23年
	（付）園原　太郎「教育心理学の在り方」『心　理』		昭和23年
	文部省編『特殊児童判別基準とその解説』	光風出版	昭和28年
	児童福祉の問題		
	厚生省児童局編『児童福祉』		
	厚生省児童局編『児童福祉参考資料・ロレッタベンダ家庭生活に優るものはない』	東洋書館	昭和23年
	谷川　貞夫「ホスピタリスムスの研究(1)(2)」「社会事業」昭和28年～29年		昭和26年
	（付）堀　文次「養護理論確立の試み(1)(2)」『社会事業』		昭和25年
	糸賀　一雄『精薄児の実態と課題』	関書院	昭和31年
	留岡　清男『留岡幸助と北海道家庭学校』	北海道家庭学校	昭和29年
	留岡　清男ほか『北海道家庭学校四十年』	北海道家庭学校	昭和30年
2	**日本心理学の方向づけ**		
	高木・小川・前田・外林『現代心理学の展開』	学生書房	昭和25年
	小笠原・相良・増山『現代心理学の動向』	学生書林	昭和26年
	乾　孝『現代の心理学』	厳松堂	昭和23年
	大脇義一・渡辺徹『心理学講座第一巻』（分冊）	中山書店	昭和28年
	（付）矢田部達郎「心理学の在り方」	『心　理』	昭和22年
	（付）乾孝・中川作一「最近の心理学界の動向」	『理　論』	昭和29年
	（付）永丘　智郎「日本心理学の戦後再建過程」	同氏著『現代文化心理学』	昭和54年
	（付）城戸幡太郎「日本の心理学はどう発展したか」	同氏著『教育心理学への反省と期待』	昭和56年
3	**教育心理学の再出発**		
	霜田　静志『子供に自由を』（部分収録）	主婦之友社	昭和22年
	波多野完治『青年教育者への手紙』	厳松堂	昭和22年
	波多野完治『現代心理学と教育』（部分収録）	金子書房	昭和23年
	依田　新『新教育と児童心理』	牡文社	昭和24年
	鈴木　清『新教育の心理と教育評価』	玉川大学出版部	昭和24年
	（付）後藤　岩男「新教育に於ける児童心理学の位置」	『児童心理』	昭和23年
4	**教育心理学の自覚的展開へ**		
	松本　金寿『教育はどこへ―戦後教育の診断』	講談社	昭和35年
	続　有恒編『シンポジアム　現代の教育心理学―日本人のぐる問題を』	国土社	昭和31年
	高木正孝・津留宏ほか『教育社会心理学―『マルクス―レーニン主義研究』	朝倉書店	昭和34年
	（付）新庄　三郎「プラグマティズム教育の批判」	宗像誠也編『教育科学』	昭和30年
	（付）碓井　正久「教育科学と教育心理学」		昭和31年
	（付）依田　新「戦後における日本の教育心理学(1)(2)」	『児童心理』	昭和34年
5	**臨床心理学の起点**		
	宮城　音弥『危機における人間』	『心理学講座7　臨床心理』	白日書院　昭和22年
	（付）宮城　音弥「臨床心理学の領域と方法」	光文社	昭和28年
	井村　恒郎『現代病―おのれを失える人びと』		昭和28年
	（付）井村　恒郎「軍隊における異常心理」	『異常心理学講座　第3部』	昭和30年
	戸川行男編『臨床心理学』	金子書房	昭和27年
6	**城戸幡太郎集**		
	城戸幡太郎『生活技術と教育文化』	万里閣	昭和21年
	城戸幡太郎『教育科学的論究』	世界社	昭和23年
	城戸幡太郎『民主教育のありかた』	社会社	昭和22年
	城戸幡太郎『日本のカリキュラム』	評論社	昭和25年
	（付）城戸幡太郎「教育の研究法」		昭和26年
	（付）城戸幡太郎「北大教育学部の構想」	同氏編『教育学研究入門』『北海道教育評論』	昭和25年
7	**正木　正集**		
	正木　正『教育心理学序説』	同学社	昭和31年
	（付）正木　正「感化の教育心理学的構造」『正木正選集―道徳教育の研究』		昭和38年
	正木　正『教育の底にあるもの―教育的人間の研究』	同学社	昭和25年
	正木正・相馬勇『教育的真実の探究』	黎明書房	昭和33年
8	**牛島義友・長島貞夫・高木正孝集**		
	牛島　義友『小学生の心理』	厳松堂	昭和27年
	長島　貞夫『児童社会心理学―性格の社会的形成』	牧書店	昭和31年
	高木　正孝『日本人の生活心理』（訂正増補版）	創元社	昭和32年
9	**望月衛・南博集**		
	望月　衛『食欲の心理学』	太虚堂書房	昭和21年
	望月　衛『性と生活―心理学の立場より』	理想社	昭和24年
	南　博『心理学展望』（部分収録）	金子書房	昭和24年
	南　博『不安の芽―十代の求めるもの』	平凡出版	昭和31年
10	**狩野広之集**		
	狩野　広之『質素の心理と才能―労働環境適応の問題』	解放社	昭和24年
	狩野　広之『不注意物語―労働災害の事例研究集』	労働科学研究所	昭和32年
	狩野広之編『精神的能力の発達に関する逐年的研究』	生活科学協会	昭和35年
	狩野　広之『精神薄弱者の職業適性』	生活科学協会	昭和35年
	（付）太田垣瑞一郎・正戸茂『安全労務・労働心理』	日本経済新聞社	昭和33年
11	**玉生道経・植松正集**		
	玉生　道経『戦争と少年犯罪』	童友書房	昭和23年
	玉生　道経『少年期の犯罪』	岩崎書店	昭和26年
	植松　正『裁判心理学の諸相』	世界社	昭和22年
12	植松　正編『犯罪心理学』	朝倉書店	昭和30年

※第11巻に関しましては、収録の変更がある場合がございますがご了承下さい。

日本の教育と福祉の大きな成果を集めた意義ある企画

長崎純心大学教授
日本女子大学名誉教授
一番ヶ瀬　康子

今、日本の教育現場でもまた福祉の現場でもさまざまな子どもの問題が噴出している。いじめ、不登校さらに無気力等々である。このような時に子どもを全面的な存在としてとらえ、また現場の実践のなかからその発達の支え方の具体的な在り方を探求した論稿にふれることの意味は、深い。その意味で、日本の教育と福祉の大きな成果としてのこされてきた文献を集めたものとして、この選書の編み出されてきたことの意義は大きい。

ことに現在、大人自体が子どもを理解できず、ついに虐待にいたる場合がふえている。また、子どもがわからず、自らがノイローゼになる教員も少なくない。それだけに、子どもそしてその発達の道筋をしっかりとつかみ、行動の奥にあるものを認識する必要があろう。

しかも、この選書には、子どもと青年のみならず、女性、老人、異民族等の問題にアプローチした論文なども含まれている。そのことは、生涯発達、生涯学習と同時に人権を基にした教育、福祉がさけばれている今日、その具体的方法を検討する意味においてもきわめて意義深いものであるといえよう。

教育、福祉の現場人のみならず、その現場人を目指す若い学究、また日本の教育や福祉研究の新しい地平をきりひらこうとしている多くの人々によって、この選書が存分に活用されることを願ってやまない。

未来に光明を投げかける画期的な文献集

中央大学名誉教授
寺内　礼

歴史が目にみえ、はだで感じられる時代、これが現代です。心理学の世界に限ってみても、一九八〇年以降、ラテン・アメリカ心理学会、アジア・アフリカ心理学会、アジア・オセアニア心理学会等が相次いで設立されました。日本では〇〇心理学会と銘打った組織が雨後の筍のように続出し、数種類のカウンセリング関係の心理士なるものが産み落されています。欧米的な心理学からインディジナス（土着性の）心理学への転換、ナショナルなものを基盤としてのインターナショナリズムまたはトランス・ナショナリズム等も話題になっています。

このような状況の中で、障害者福祉の第一人者であり、心理・教育史家としても高い評価を得ている大泉溥教授によって、『文献選集　教育と保護の心理学』が刊行される運びになりました。このタイトルは監修者のフィロソフィに従って決定したのだと思いますが、本選集は明治時代から現在に至る日本の心理学界の動向を中心として、非行や障害者の教育に関する文献まで網羅した画期的なものです。現在の視点から過去を忠実にとらえることが、見通しを困難にしている未来に、光明を投げかけるものといえるでしょう。本選集の刊行を心より歓迎します。

「教育と福祉」を軸とする総合的人間研究の土台づくり

中央大学教授
東京大学名誉教授
堀尾　輝久

本文献選集は近代日本における教育・福祉にかかわる心理学的研究文献を広く探索し、精選して世に問おうとするものである。目次を一見して、その視野の広さとともに、苦心のほどがうかがえる。

戦後五〇年、各学問領域で、それぞれの歩みを総括する仕事が始まっている。本選集には、明治の創草期からの、心理学・教育学分野での、また子どもの生活と学習の実際をふまえての開拓的研究が収められており、いわゆる心理学の領域を越えて、広く、子ども・青年研究の歩み、さらに時代の推移のなかでの子ども研究の方法意識、そして、子ども観の歴史も浮かび上ってくる。それは、教育研究の新しい分野の、そしてそれこそが中核となるべき領野の開拓の跡を示すものである。

私たちは、その学問の歩み自体を対象化することが重要であり、掲載論文を駆使しての、更に新たな文献発掘を通しての、学問史・学説史研究が期待される。その中から、子ども・青年の生活・発達・学習を軸にした心理学と教育学さらには社会科学との協同の必要性・必然性も浮かび上ってこよう。それは、「教育と福祉」を軸にする総合的人間研究としての教育学の土台づくりでもある。

推薦のことば

第三章　精神薄弱児童の教育並保護

（一）精神薄弱の意義

イ、人間の品等

或宗教では、神と人間と禽獸とは三種の全然異つたもので、禽獸は到底人間に進化することは出來ず、人間は絶對的に神と一致することは出來ないと信じてゐる。人間は神に接近することは出來るが、一體となることは到底出來ないと考へられてゐる。之に反して或宗教では禽獸といへども人間に進化することが出來、人間も神と一體になり得るものと信じてゐる。

恰此やうに、人間の品等に就いても二種の見解が行はれてゐる。或者は聖人、凡人、白癡の如き品等は絶對的の區別で、全く別種のものであると認めてゐるが、或る者は之に反して、人間そのものゝ個別的差異に過ぎないものと認めてゐる。身體上より考ふるも、又精神上より考ふるも、其發達階段は無數無量で全く連續的のものである。初めより區劃的に嚴重なる境界線を以て限られてゐるものではない。されば、巨人と小人とは絶對的のものではなく、聖人と凡人との區劃も亦絶對的

■昭和戦前戦中期第9巻　菊池俊諦著『感化教育に於ける諸問題』

■専門雑誌・研究紀要第8巻　青木誠四郎編『児童生活の実態』

第一篇　児童生活の内容とその時間的布置

一　児童生活の實態

わたくし達がこれまで兒童の生活について覗はうとしたとき、そこでまづ第一に問題となり、また、まづ關心を拂つて來たものは何であつたらうか。それは兒童の生活活動の一瞬時的なとも云つて見ることのできる生活の場での横斷的な構造であつたと云はれるであらう。たとへばわたくし達は兒童の運動形態について覗ひ、それがどのやうな姿をもつてゐるかについて見るとき、ある一つの運動の速さとか、正確さとか、その時の筋肉の動きとか云ふ風のことに注意を拂つて、その特質がどこにあるかを探らうとした。またわたくし達が兒童の思考についてその特質を知らうとするときには、兒童がある一つの問題を考へる場合それがどのやうに考へられるかその時の思考の運び方の姿について見て來たのであつた。

更にまたそれが一横斷面と云ふのでなく、そこに發達的な追究が見られる場合に於てもそれ等はいづれも文脈を分けて、思考とか、運動とか、情緒とか、或は遊びとか、學習とか云つたそれぞれのはたらきがいかに年齢を追つて變化するかを把えて、それによつて發展の經過を明かにしようと努力し來つたのであつた。兒童の生活は、このやうにして、その一つのはたらきの構造や、その發達が示されるやうになつて來たのである。

文献選集

教育と保護の心理学

全四期48巻／別巻1

大泉　溥監修・解題

全四期48巻　揃定価本体996,000円

（第Ⅳ期全12巻　昭和戦後初期）

●第1回配本　第1巻〜第6巻
揃定価本体127,000円　ISBN4-87733-072-0
1999年7月末日刊

●第2回配本　第7巻〜第12巻、別冊解題
揃定価本体125,000円　ISBN4-87733-073-9
2000年2月末日刊

●第Ⅳ期全12巻　揃定価本体252,000円

●第Ⅰ期　全12巻　明治大正期

第1回配本　第1巻〜第6巻　揃定価本体124,000円　ISBN4-87733-020-8
第2回配本　第7巻〜第12巻、別冊解題　揃定価本体125,000円　ISBN4-87733-021-6
第Ⅰ期全12巻　揃定価本体249,000円

●第Ⅱ期　全12巻　昭和戦前戦中期

第1回配本　第1巻〜第6巻　揃定価本体126,000円　ISBN4-87733-022-4
第2回配本　第7巻〜第12巻、別冊解題　揃定価本体119,000円　ISBN4-87733-023-2
第Ⅱ期全12巻　揃定価本体245,000円

●第Ⅲ期　全12巻　専門雑誌・研究紀要

第1回配本　第1巻〜第6巻　揃定価本体120,000円　ISBN4-87733-052-6
第2回配本　第7巻〜第12巻、別冊解題　揃定価本体130,000円　ISBN4-87733-053-4
第Ⅲ期全12巻　揃定価本体250,000円

●別　巻　日本心理学者事典（近刊）

●クレス出版好評既刊書●

「子どもと家庭」文献叢書

全12巻／石川松太郎監修　山本敏子・藤枝充子編集協力
明治初年より昭和期の第二次世界大戦終了時までに家庭教育について論述した文献を、子どもと家庭（とくに両親）との人間的な関わりに視点をおき、思想・心理・生活などさまざまな角度より収録。日本の近代社会の子育ての理念・方法・内容の軌跡。
A5判／総6,280頁／揃定価本体132,000円／ISBN4-87733-042-9

戦後家庭教育文献叢書

全10巻／石川松太郎・山本敏子監修・解説
家族が家庭で子どもに基本的な教育と社会化を行う「家庭教育」は、子どもの人格形成に重要な役割をもち、教育の基本である。「家庭教育」という枠組みのなかでも、思想哲学、歴史、行政政策、社会、心理、児童・社会福祉にも及んで編集している。
A5判／総4,120頁／揃定価本体94,000円／ISBN4-87733-018-6

岡崎文規著作選集　人口と家族

全6巻／清水浩昭監修・解説
大正末期から昭和40年代に至る長い期間、日本を代表する人口学者の一人であり、また人口行政の中心者であった岡崎文規の主要著書・論文のうち、「人口と家族」の視点から編集。結婚、離婚、出産、死亡全般、自殺、他殺など人口動態の幅広い資料。
A5判／総3,060頁／揃定価本体85,000円／ISBN4-87733-011-9

社会福祉統計年報

全3巻／厚生省大臣官房統計調査部編　上掛利博解説
厚生省報告例の抜本的改革によって1951年1月から各都道府県から提出されるようになった統計報告をまとめて（各巻の第2編）、それらに解説を付けて（同第1編）、昭和26年度より同34年度まで公刊されたもの。解説の最後には、英文概要も付けられている。
B5判／総2,800頁／揃定価本体90,000円／ISBN4-87733-059-3

KRESS 株式会社クレス出版
〒103-0001　東京都中央区日本橋小伝馬町14-5　メローナ日本橋
☎03(3808)1821　FAX03(3808)1822　http://www.kress-jp.com/